

標準小児科学

第6版



編集：森川 昭廣，内山 聖，
原 寿郎

B5 頁 792 2006 年
定価 9,240 円(本体 8,800 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00187-8]医学書院刊

小児科学は、すべての臓器別分野が対象となるほか、小児の特徴である胎児、新生児から思春期までを含む成長と発達という時間軸からの視点も重要である。さらに、小児保健や精神疾患・心身医学的側面も含まれる。このように、広範な分野を対象としているにも関わらず、各大学において小児科学へあてられる講義時間は限られている。とりわけ、医学教育にチュートリアル授業が導入されてからは、講義時間の削減は顕著である。評者が所属する名古屋大学においても、小児科学にあてられる講義時間はわずか 15 時間にすぎない。学生は自学自習が原則であり、膨大な小児科学の内容を欠けることなく簡潔にまとめた教科書が必須である。本書は、このような目的に適しており、1991 年に第 1 版が出版されて以来、今回第 6 版と改訂を重ねていることは、わが国の医学生に広く支持されていることを反映した結果であろう。

本書は、疾患の記載については、① 定義・概念、② 病因・病態、③ 臨床症状、④ 診断、⑤ 治療、と統一されており、その内容も簡潔で理解しやすい。図や表が多数含まれていることも理解の一助になるであろう。付属のカラーページも充実しており、麻疹・水痘といった発疹性疾患の皮膚所見から、急性白血病の骨髄像まで鮮明な画像が多数掲載されている。

従来の内容に加えて、今回の第 6 版には新たに国試対策や臨床現場での参考となるように「やってはいけないこと」、学生の教科書レベルを超えた知識として「アドバンス」、さらに最新情報の入手の便宜を図るために「参考となるホームページ」が追加された。医師国家試験にも取り入れられるように、それぞれの疾患や病態における「禁忌」に関する知識は、医学生にとって最重要である。本書にはこのような「禁忌」事項を「やってはいけないこと」と別枠で記述されているので、記憶にも残りやすく優れた工夫である。「アドバンス」には、教科書レベルを超えた内容ではあるが、最近のトピックスや実際の診断に必要な知識が記載されている。学生時代に通読した教科書は、研修医、さらに他科に進んだ医師にとっても、卒業後、臨床の現場で手に取る機会があるであろうが、そのような場合にこの「アドバンス」の項目は役立つであろう。

教科書の欠点は、日進月歩の医学の世界において、記載された内容がややもすると古くなりがちである点であるが、その対極にインターネットによる情報入手がある。最近の学会や患者会のホームページには、診療ガイドラインなど実際の診療に役立つ最新情報が掲載されている。第 6 版には、各章の最後に「参考となるホームページ」として、関連した学会、患者会や疾患データベースのホームページが記載されており、これらのホームページごとアクセスすることで最新情報が入手できるようになっている。

このように、『標準小児科学 第 6 版』は、学生向けの教科書として立場を継承すると同時に、卒業後にも役立つように新たな工夫が盛り込まれており、従来にも増して利用価値が高い。以上の理由から、わが国を代表する小児科学の教科書の 1 つとして、本書を医学生諸君に強く推薦する。